

恋をするのに理由が必要なら、 そんなもの、 ここにいくらでも書いてある。

【愛】(一) 人類がもれなく罹る病で、誰かのために命を投げ出してもいいという、ときに当人の想像を超えた勇氣と力をもたらす天恵。
(二) 本辞典のすべてのページを構成している概念。
【いいえ】相手の言葉を打ち消したり、拒否したりするために用いられる言葉。ただし、女性の口から発せられたときはその限りではない。
【一日千秋】(一) 非常に待ち遠しいこと。(二) 君からの返信を待つ時間。
【二年】(一) 三百六十五回のときめきからなる一期間。(二) 君と出会うまでの永遠。君と出会ってからの一瞬。
【色男】出会いと別れを繰り返して、女性の頬を涙で濡らして駆け抜ける通り雨。
【ウイスキー】一口飲むだけで長い歳月を味わえる、時間旅行ロケットの液体燃料。
【ウェディングドレス】この世でもっとも美しく引きずられる幸福な装い。
【腕時計】もう少し一緒にいたいとき、そっと外す夜の鎖。
【革命】(一) 社会や政治構造といった、既成の物事の価値を根本的にあらためること。(二) 初めて君と出会った日。
【キスマーク】はしゃぎすぎた真夜中の大人のかさぶた。夢の名残。
【喫茶店】コーヒーを飲み干すまでのあいだ、向かい合って座っていられる砂時計。
【器用】右手で髪をなでながら、左手を背中に回すこと。
【銀河】世界中の宝石をばらまいても足りないほどの輝きを持つ、空に流れる川。たとえば恋する人の瞳の奥に見られるような。
【口紅】大人のクレヨン。
【下駄】恋人に手を引いてもらうために、わざと

歩きづらく設計された夏の履物。
【結婚】恋の終わり。愛の始まり。
【恋人】この世でもっとも甘い響きを持つ三人称。
【コーヒー】この世でもっともほろ苦い飲み物。叶わなかった恋と同じくらい。
【葉】本の恋人。
【終電】ロマンスの足りない夜にわざと逃すもの。
【投票】君の後ろ姿を見つめるために要やされる50分間。
【裾】相手を引き止めるために作られたシャツの余白部分。指先でそっと摘まむように引いて使う。
【刹那】(一) 仏教における時間の最小単位。指を一度弾く間に60〜65回の刹那があるとされる。(二) 人が恋に落ちるのに十分すぎる時間。
【線香花火】恋の次に儂いもの。
【ダイヤモンド】この世で一番の輝きを放つとされている宝石。ただし、君が身に着けると二番目になる。
【チケット】君をデートに連れ出すために、わざと余らせる紙きれ。
【月あかり】時計の針を確認するには暗すぎるが、二人の愛を確かめあうには十分すぎる明かり。
【遠回り】好きな相手との帰り道にだけ通るルート。
【涙】君にもっとも似合わないアクセサリー。
【初恋】人生という書物において、誰もが葉を挟んだままのページ。
【ピアス】振り向くたびに揺れる耳元の風鈴。
【ファッションショー】初デートの前日に、鏡の前で長時間にわたって行われる行事。
【マニキュア】女性の指をスクリーンにした名画座。
【門限】現代女性のためのシンデレラの名残り。
【横顔】恋をしたとき、心より先に盗むもの。